

海外旅行ガイドブックの地図にみられる都市の領域的階層性

-地図表現によるイメージ形成の枠組みに関する研究-

Spatial Structure of World Cities Represented by Maps in Travel Guidebooks

-A Study on the Framework of the Image through Description of Map-

奥山研究室 11M30138 金森 麻紀 (KANAMORI, Maki)

keywords: 都市イメージ、地図、ガイドブック、世界都市
the image of the city, map, guidebook, world city

1. 序

1-1. 研究目的 現実の空間から必要な情報が選択され描写される地図は、都市空間に対する人々のイメージ形成に影響を与えるメディアのひとつといえる。その中でも、世界の都市を観光する際に利用する海外旅行ガイドブックにおいては、広域を描写した都市の全体地図に、多くの人が訪れることが想定された地域一帯を部分的に拡大して描写した複数の部分地図が重ねられることで、都市の領域が階層的に表現されている。そのような縮尺の異なる全体地図と部分地図との包含関係と部分地図の分布形式とは、都市の階層化された領域的広がりイメージ形成に関与すると考えられる。そこで本研究では、世界の主要都市¹⁾を対象とした海外旅行ガイドブック²⁾の地図にみられる領域的階層性を検討することで、都市に対するイメージ形成の枠組みの一端を明らかにすることを目的とする。

2. 部分地図の分布形式にみる都市の階層的性格

本章では、全体地図に分布する部分地図の内容と、分布形式とを分析することから、都市の階層的性格を検討する。

2-1. 部分地図の性格 部分地図には、それぞれの特徴を示すタイトルと解説文とが掲載されている。それらと、地図中に示される主要観光スポット³⁾ (以下、スポット) やその他飲食店などのコンテンツ⁴⁾ の数と位置とから部分地図の性格を検討した。スポットが多く位置するものをスポット中心、コンテンツが多く位置するものをコンテンツ中心、さらに交通の要所中心、自然・公園中心の大きく4つで部分地図の性格を捉えた(図2)。

2-2. 部分地図の分布形式 全体地図に分布する部分地図の多くは、それらが連続することでまとまりを形成する。そこで、隣接する部分地図同士の連続関係を、重なりあり・重なりなしに大別し、さらに地図共有部分におけるスポットの有無からそれ

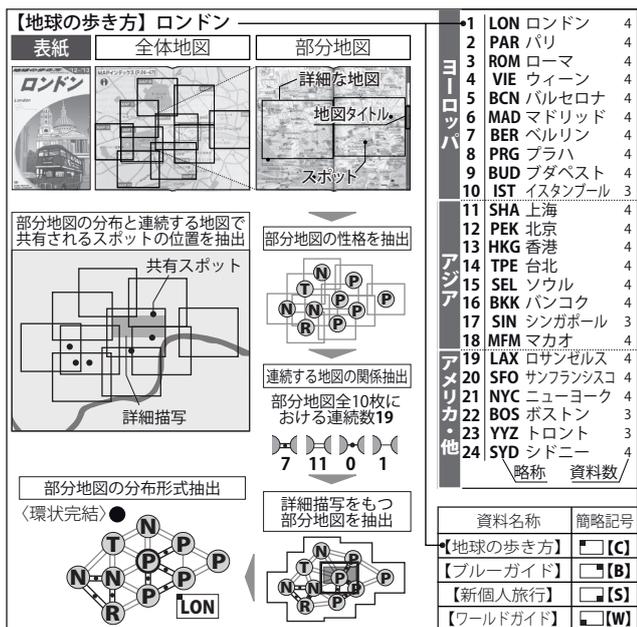


図1 資料概要と資料単位の分析例



図2 部分地図の性格

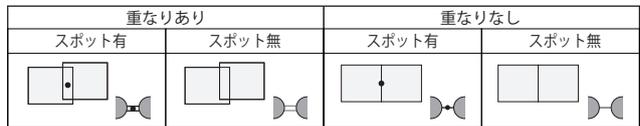


図3 部分地図同士の連続関係

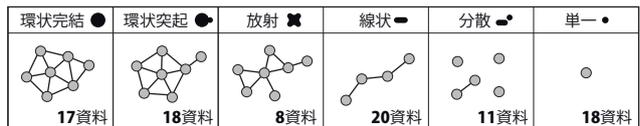


図4 部分地図の分布形式

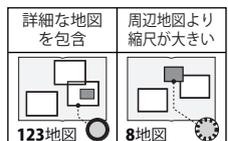


図5 部分地図における詳細描写

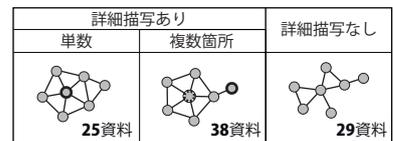


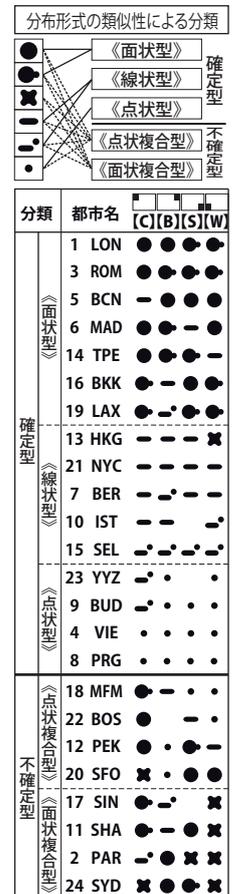
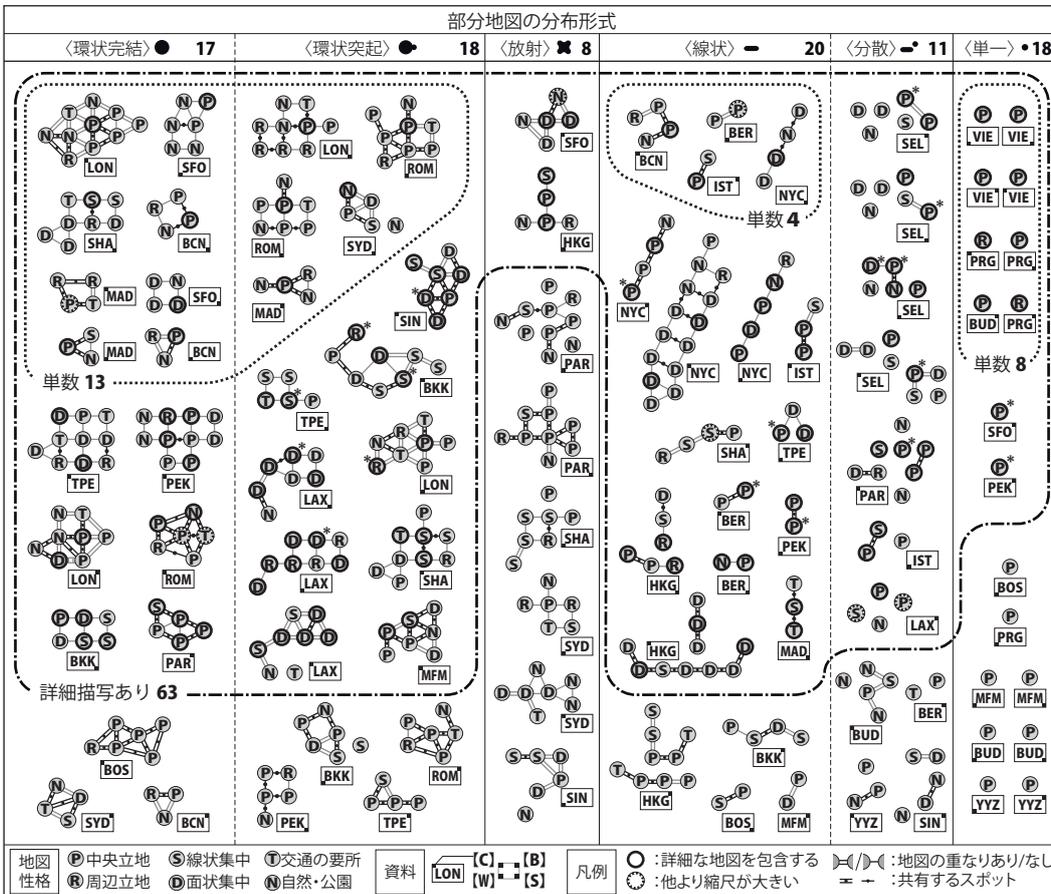
図6 部分地図の分布における詳細描写の数

らを2つに分類した(図3)。これらの連続により、資料毎の部分地図の分布形式を以下の6つで捉えた(図4)。〈環状完結〉は全ての部分地図が複数の地図と連続し、一体的なまとまりを形成することで、部分地図の分布における平面的な階層性が、全体の広がりを中心から周縁へ段階的に変化するもの、〈環状突起〉は環状のまとまりに付随的な部分地図がみられるもの、〈放射〉は単一の部分地図や単一の環をもつ部分地図のまとまりから、複数の方向へ放射状に連続することで、ある場所を中心として複数の方向に個別に変化する階層性をもつもの、〈線状〉は複数の部分地図が線状に連続するもの、〈分散〉は連続せず階層性が低いもの、〈単一〉は部分地図が単独のものである。

2-3. 部分地図の分布形式と詳細描写の数 部分地図には、より詳細な地図を包含するものと、部分地図の縮尺自体が大きく詳細に描かれるものがある(図5)。それらを詳細描写と定義し、資料毎にその数を検討した(図6)。ここで、図7において、部分地図の分布形式と詳細描写の数との関係から、ガイドブックの地図における資料毎の階層的性格を検討した。分布形式において面的な広がりをもつ〈環状完結〉〈環状突起〉〈放射〉のうち、〈環状完結〉〈環状突起〉には詳細描写単数のものが多い一方で、〈放射〉においては詳細描写なしのものが多くみられ

た。このことは、明確な集中点をもつ場合には、そこから多方向に連続することで、一体的なまとまりが形成されるのに対し、明確な集中点を持たない場合には複数の個別のまとまりが拡張し、結果的に近接する領域と連続することで、一続きのまとまりが形成されると考えられる。〈線状〉〈分散〉においては、詳細描写複数のものが多いことから、複数の集中点を繋ぎ合わせるように一連のまとまりが形成される、もしくは連続せず複数の個別のまとまりが形成されると考えられる。〈単一〉においては、単数の詳細描写が多いことから、非常に狭小な範囲に集中的な単独のまとまりが形成されると考えられる。

2-4. 分布形式の類似性による都市の階層的性格 複数のガイドブック間での部分地図の分布形式の類似性によって、〈環状完結〉〈環状突起〉を中心に描かれる都市を《面状型》、〈線状〉〈分散〉を中心に描かれるものを《線状型》、〈単一〉を中心に描かれるものを《点状型》、さらに、様々な分布形式が複合するものうち〈単一〉を含むものを《点状複合型》、その他の面的な広がりをもつ分布形式が複合するものを《面状複合型》とした。そのうち、分布形式の類似性が高いと考えられる《面状型》《線状型》《点状型》を**確定型**、類似性が低いと考えられる《点状複合型》《面状複合型》を**不確定型**として位置づけた(図8)。



図註) * は詳細描写を複数箇所もつ部分地図

3. ガイドブックの地図による都市の領域イメージ

前章でみた部分地図の分布形式の類似性とは別に、分布範囲についてもその類似性を捉えることができる。そこで、本章では都市毎に部分地図の分布範囲を重ね合せ、領域的な広がり の類似性を検討し、分布形式の類似性との関係からガイドブックによって形成される都市の領域イメージを捉える。

3-1. 部分地図の分布範囲にみる都市の領域的広がり

まず、都市毎の全資料において、部分地図の分布範囲の外形線の近接の度合いを検討した。全資料で近接するもの、単数資料を除いて近接するものを「近接性が高い」、その他の近接がみられないものを「近接性が低い」として分類した(図10)。

また、部分地図の重ね合せにおいて、図11の様に全資料で同一の範囲が切り取られていると考えられる共有範囲を「ラップエリア」と定義し、その数から、複数、単数、なしの3つで捉えた。

さらに、共有する詳細描写の位置⁵⁾を捉え、その数によって複数、単数、なしの3つに分類した(図12)。

3-3. 分布形式と分布範囲にみる階層的な領域イメージ

分布範囲の重ね合せによる外形線の近接性とラップエリアの数との関係に加え、分布形式の類似性による分類を捉え、図13に示した。近接性が高くラップエリアをもつことで、部分地図の分布範囲において類似性が高いものには確定型の《面状型》《線状型》《点状型》がみられたことから、分布形式において類似性が高い都市は、領域的広がりにおける類似性も高いと考えられる。

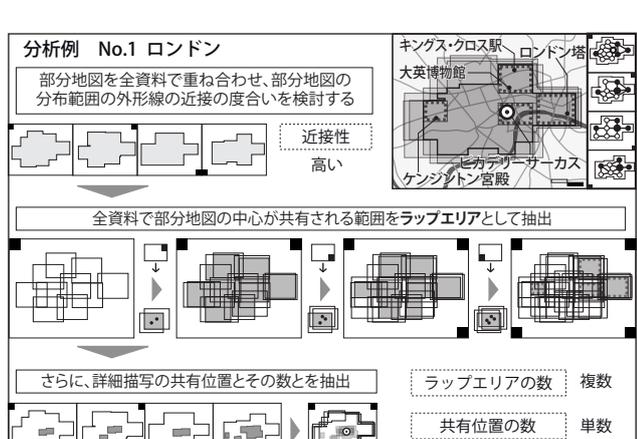


図9 都市単位での分布範囲の分析例

リアが多く分布することから、西側においては東側とは対照的に、不明瞭で求心性のない領域的広がりが形成されると見て取れる。また、ローマにおいては全体の広がり の周辺部にラップエリアが均等に分散することで、中心部と周縁部とで対照的な領域的広がりが形成されていると見て取れる。《線状型》においては、近接性が高いものと低いものとに両分され、近接性が高い香港、イスタンブール、ニューヨークにおいては地形に沿って線状に連続する境界の明確な領域イメージが形成されると見て取れる。近接性が低いベルリン、ソウルにおいては、いずれも中核となる2つの領域により都市全体の広がりが見て取れる。ベルリンにおいては2つの領域がいずれもラップエリアとなることで、類似した2つの広がりによる領域イメージが形成されるのに対し、ソウルにおいては一方が求心性と明確な境界を持ち、他方は求心性のない曖昧な境界を持つことで対照的な2つの広がりによる領域イメージが形成されると見て取れる。《点状型》においては、ラップエリア単数のものが多く、ウィーンにおいては近接性が高いことから、狭小な範囲に求心性と明確な境界をもつ領域イメージが形成されるのに対し、プラハとブダペストにおいては、近接性が低いことで求心性を持ちながらも境界の曖昧な領域的広がりが形成されていると考えられる。《面状複合型》においては、全都市でラップエリアがみられた。そのうち、ラップエリアが複数のパリにおいては求心性のある領域が複数分布するものの、分布形式が複合し、地図同士が明確な連続性をもたないことで、曖昧な境界の内部に複数の断片的な領域イメージが形成されると考えられる。また、ラップエリア単数の上海に関しては、都市の中心となる領域から通りに沿いながらも面的に広がる領域イメージが形成されると見て取れる。《点状複合型》においては、ほとんどがラップエリアを持たず、近接性が低いことで、多様で不確定な領域イメージが形成されると考えられる。

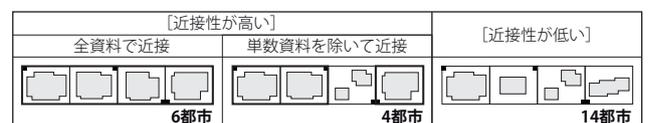


図10 部分地図の分布範囲における外形線の近接性

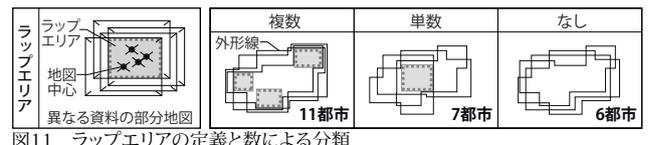


図11 ラップエリアの定義と数による分類

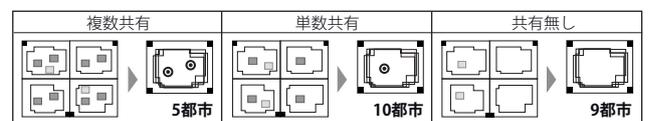


図12 詳細描写の共有数による分類

4. 結

以上、海外旅行ガイドブックに描かれた部分地図の分布形式と分布範囲とから、都市イメージの領域的な階層性を検討した。その結果、ウィーンのように非常に狭小な範囲に求心的な単一の領域が形成されるもの、ロンドンのように明確な広がりの中に複数の求心的な領域の連続がみられるもの、パリのように連続性のない求心的な複数の領域を内包し都市の広がり曖昧なものといった都市のイメージの典型を位置づけることができ

た。このことから、ウィーンは都市の領域的な広がりが中心に固定化した不変的なものであるのに対し、ロンドンとパリにおいては、都市の発展過程における領域的な変遷を基盤とした、都市のイメージ形成の異なる2つのあり方を示すものであると考えられる。

- 註1) 世界の主要都市であり、ガイドブックに多く取り上げられる全24都市を対象とした。
 2) 日本で出版されている、海外旅行者向けガイドブックである『地球の歩き方』、ダイヤモンド社、『ブルーガイドわがまま歩き』、実業之日本社、『新個人旅行』、昭文社、『ワールドガイド』、JTBパブリッシング、の2012年時点における最新号を資料とし、これらの地図を分析した。
 3) 個別の解説文付きで紹介されている主要な観光地をスポットと定義した。
 4) スポット以外で、観光の際に利用する飲食店をはじめとする店舗などをコンテンツとして定義した。
 5) ここでは、3資料以上で共有される詳細描写の位置を抽出した。

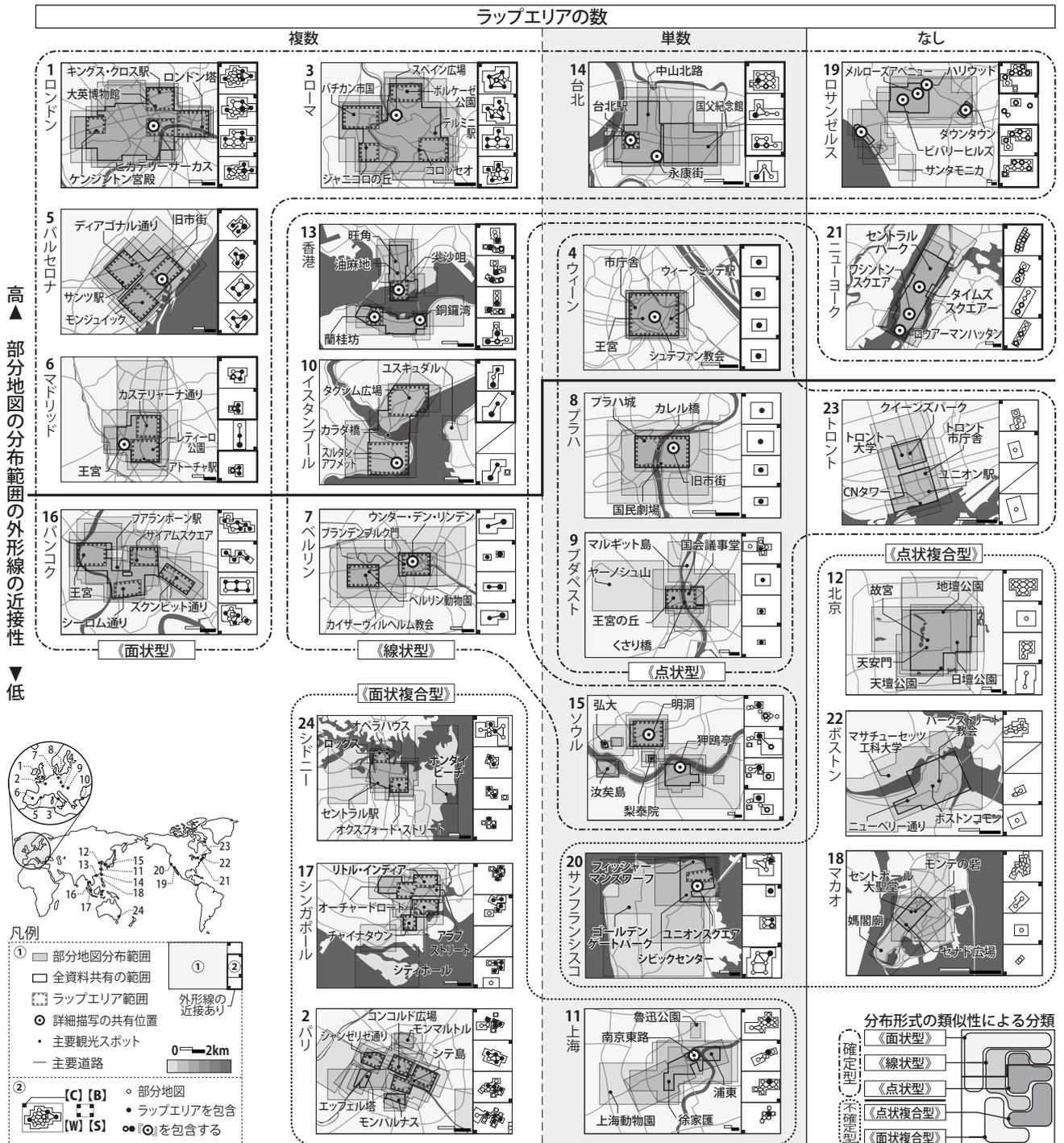


図13 ラップエリアの数と部分地図の分布範囲の外形線の近接性